# 2012年度センター試験　簿記・会計

## 第１問

Ａ　取引および記帳に関する問題。

問１．簿記で、主要簿として使われる二つの帳簿は以下のものがある。

**仕訳帳**：取引を発生順に記入を行う。
**総勘定元帳**：勘定口座ごとに増減が記入される。

取引が行われると、まず仕訳帳に記入され、それにもとづいて総勘定元帳に記入を行う。これを**転記**という。

転記が正しければ、すべての勘定の借方合計金額と貸方合計金額はつねに等しくなる。これを**貸借平均の原理**という。

問２．選択肢のＡ～Ｈの中で簿記上の取引でないものは以下の二つである。

Ｂ．家賃を月額￥5値上げするむねの通知を受けた。
⇒家賃の値上げの通知を受けただけであり、実際に家賃の支払いが行われたわけではないため、簿記上の取引にはならない。

Ｈ．備品￥300の購入契約を結んだ。
⇒購入に関して契約が結ばれただけで、購入は行われてはいない。

正解は「Ｂ－Ｈ」である。

問３．
(1)　１日から13日までの取引の仕訳は以下の通りである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 1日： | 貸倒損失 | 300 | 売掛金 | 300 |
| ② | 9日： | 商品券 | 20 | 売上 | 20 |
| ③ | 13日： | 引出金 | 50 | 現金 | 50 |

このことから、各取引の取引要素は以下の通りにある。

①　1日：　費用の発生　－　資産の減少
②　9日：　負債の減少　－　収益の発生
③　13日：　資本の減少　－　資産の減少

(2) 17日から31日までの取引の仕訳は以下の通りになる。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 17日： | 現　金 | 200 | (売掛金) | 200 |
| ② | 26日： | 仮払金 | 60 | (現　金) | 60 |
| ③ | 31日： | (消耗品) | 30 | 消耗品費 | 30 |

①：小切手はすぐに現金化できるため「現金」として処理を行う。
②：企業活動の費用として概算額を渡す時は「仮払金」で処理を行い、その後精算を行う。
③：消耗品の繰り延べは、決算である期末に「消耗品」を「消耗品費」に振り替えて、期首に「消耗品費」を「消耗品」に振り替える処理を行う。

第1問　Aの解答

| ア | イ | ウ | エ | オ | カ | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス | セ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 7 | 1 | 9 | 3 | 7 | 1 | 3 | 6 | 5 | 1 | 0 | 6 | a |

# 第１問

Ｂ　個人商店である金沢商店（決算は年１回、決算日は１２月３１日）の取引の記帳に関する問題。

問１　金沢商店は、本店のほかに支店を設けており、支店の会計は本店の会計から独立している。ただし、商品売買取引の記帳にあたり、本店は三分法を採用し、支店は分記法を採用している。

(1) 資料２の本支店間の取引の仕訳は以下のとおりである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 29 日： | ［支店］ | 未払金 | 5 | （本　店） | 5 |
| 30 日： | ［本店］ | （支　店） | 30 | 仕　入 | 30 |
| | ［支店］ | （商　品） | 30 | （本　店） | 30 |
| 31 日： | ［本店］ | （現　金） | 10 | 支　店 | 10 |
| | ［支店］ | （本　店） | 10 | （受取利息） | 10 |

(2)

(a) 支店の売上高は支店の商品勘定、商品売買益勘定の貸方の合計金額で求められる。

商品勘定の貸方の合計金額：　15+36　＝　￥51
商品売買益勘定の貸方の合計金額；　3+7　＝　￥10

よって支店の売上高は ￥51＋ ￥10＝ ￥**61** である。

(b) １月末の本店の支店勘定は以下の通りになる。

支店

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 85 | | | 15 |
| 1/30 | 売上 | 30 | 1/31 | 現金 | 10 |

一方、支店の本店勘定は以下のとおりである。

本店

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 15 | | | 80 |
| 1/31 | 受取利息 | 10 | 1/29 | 立替金 | 5 |
| | | | 1/31 | 商　品 | 30 |

本店の支店勘定の残高：　(85 ＋ 30) － (15 ＋ 10) ＝ ￥90
支店の本店勘定の残高；　(80 ＋ 5 ＋ 30) － (15 ＋ 10) ＝ ￥90

以上よりともに残高が ￥90 で一致する。

問２　本店の委託販売および試用販売に関する１月中の取引の仕訳は以下の通りになる。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 日： | (積送品) | 53 | (仕　入) | (50) |
| | | | 現　金 | (3) |
| 15 日： | 現　金 | 62 | 売　上 | 62 |
| | 仕　入 | (53) | (積送品) | 53 |

20 日の取引は試用販売で送付していた商品についての内容である。仕訳の記述で勘定項目として「使用仮売上」が使われているため、対照勘定法による仕訳を行っている。

送付していた試用品８個のうち５個を買い取るむねの通知を受けたため、試用品の売上 ￥7×5 個＝￥35 の仕訳を行う。合わせて対照勘定の取り消しを行う。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 20 日： | (売掛金) | 35 | 売　上 | 35 |
| | 試用仮売上 | 56 | (試用販売契約) | 56 |

第１問　Ｂの解答

| ソ | タ | チ | ツ | テ | ト | ナ | ニ | ヌ | ネ | ノ | ハ | ヒ | フ | ヘ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 7 | 1 | 6 | 1 | 9 | 0 | 5 | 6 | 5 | 3 | 6 | 2 | 5 | 6 |